



幸せの国・ブータンの メリーポピーたち

7

花を求めてブータン紀行



メコノプシス・エロンガタ

松永秀和

パロ県チェレイ・ラ 標高 3850m

青いケシの種類は、現在80種を超える。1934年にジョージ・テイラーが研究の集大成として青いケシのモノグラフを著したときは41種だったので、85年間に倍近く増えたことになる。確かに、当時は外国人が足を踏み入れることができない土地がまだまだたくさんあり、その後メコノプシス(M)・シエルフイーヤM・ウィルソニーのような新種も発見されている。しかし、新種の多くは元からあったものを再分類することで、新種となったものが多い。例えば、M・バイレイである。この花は、発見当時は発見者の名をとってM・バイレイと命名されたが、前述のテイラーがM・ベトニキフォルリアに分類し、最近また元の名に戻ったといういわくつきの花である。

なぜこうしたことが起きるか。ひとつには青いケシは変化しやすく、変種が多いことがある。氷河が低地に下ることで種が分断され独自に進化したことが原因である。もうひとつには命名した植物(分類)学者が生姿を見ていなかったことが挙げられる。彼らは、雇った採集人や現地人が採ってきた標本のみで分類・命名したため、細かいが決定的な違いを見落としていた。近年、交通が発達し、多くの標本が手に入るようになり、またDNA分析などの分類技術が進歩したことにより、正確に分類できるようになったことが新種ラッシュの背景にある。

ここに紹介するM・エロンガタもそうした新種。以前はM・ホリデュラと見られていたが、チェレイ・ラに車が通り、ハが開放されたお陰で、新たな種としてデビューすることができたのである。